

<金標準、為替市場の恩恵が削がれ、高値更新は難しいか・・・>



(出所：オアシス)

FOMC 議事録でも「全員が金利について慎重に進めることで合意。全員が金利はしばらくの間制限的と判断している」と記載されており、12月のFOMCにおける利上げ観測は後退を示すなど、10年債の金利は4.5%を下回り、インフレ抑制から景気に配慮する雰囲気強めている。そのため為替市場では151.43円で推移していた円ドルは147.25円まで円高・ドル安が進むなど円の巻き戻しを見せている。そのため円建て価格の金標準先物は、一時9400円を割り込む9383円まで下値を模索している。特に米国投資適格級社債のスプレッドが2022年以来の水準に縮小しており、米国債から社債を保有する動きを強めだすなどFRBの利上げサイクルの終わりに達した見方が背景にあり、為替の潮目が変わった可能性が高い。そのためドル建て価格であるNY金は2000ドルを試す値動きを見せているが、円建て価格の金標準先物は、目先戻りを見せても円安の恩恵が低下する事から9700円を試す事はあっても高値9743円を更新するのは難しく思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDやRCIでは、MACDはMACDが下げ止まりながら、シグナルは下げている。RCIは短期が上昇しながら、長期は下げ止まりを見せている。特に日足が10日移動平均線を上回っており、目先は9700円へ近づく可能性は高いと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,360,000 円(2023 年 11 月 27 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 76,560 円(2023 年 11 月 27 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>